



知床世界自然遺産における適正利用と観光について



利用と保全の新たな関係の構築

敷田麻実 (北海道大学観光学高等研究センター)

1 知床における遺産資源利用の実態

観光客の推移(遺産効果?は確かに存在するが、継続は2-3年)

人数よりも利用の内容が重要(利用の実態、利用形態の分析)

モニタリングの継続が重要(利用の内容は変化することが前提)

【参考】

平成23年度知床世界自然遺産地域における利用状況地図

知床世界自然遺産地域における利用状況実態(知床の観光資源利用状況) グラフ集

平成22年度知床世界自然遺産地域の利用状況 コメント

北海道観光資料

2 適正利用の試み(事例)

知床五湖(利用調整地区制度を活用した利用者の管理)

ヒグマ(ヒグマ管理方針、ヒグマと人の遭遇コントロール)

ケイマフリ(観光利用と保全活動の協働・相互利益の設計) 【本日説明】

【参考】

ケイマフリ観光利用保全協働プロジェクト(パワーポイント)

3 新たな利用と保全の枠組みづくり

エコツーリズム検討会議

知床エコツーリズム戦略

【参考】

遺産候補地懇談会資料(パワーポイント)

4 遺産管理への示唆

管理体制の構築は登録以前の段階が望ましい

管理体制構築に関するアドバイスや支援が必要

参加型管理とプロセス管理、管理システムの更新が重要

管理を遂行する組織(知床でいえば知床財団)は重要

